

根室高速道路計画 要望書

「一般国道 44 号線 根室道路（根室市）」の路線変更などに関する要望書

2000 年 3 月 29 日

北海道開発局長宛

財団法人日本野鳥の会（会長：黒田長久、会員数5万5千人）は、3月29日に、建設大臣、北海道開発庁長官、北海道開発局長および環境庁長官に対して、北海道の根室道路計画の路線変更とアセスの再実施などを求める要望書を提出しました。

根室道路計画（正式名称：「一般国道44号線 根室道路（根室市）」）は、北海道根室市内の根室インターから温根沼（おんねとう）インターを結ぶ僅か7kmの高速道路です。すでにアセス（環境影響評価）や路線選定が終わり、早ければこの秋にも着工と言われています。事業者は北海道開発局です。

また、現在計画が進められているのはこの7km区間ですが、将来は釧路まで延長され、北海道横断自動車道と接続して根室と札幌が高速道路で結ばれるという構想があります。

この7km区間について事業者が行ったアセスでは、“計画路線上ではタンチョウの採餌行動は観察されておらず、営巣も計画路線から離れているため影響は小さい”とされています。

しかし昨年、地元のニムオロ自然研究会（佐々木弘佳代表）が行った調査で、計画路線上でもタンチョウが採餌しており、特に10～12月にかけては、採餌の中心域とねぐらがちょうど計画路線上にあたること分かりました。また営巣地も温根沼インター予定地から500m程度のところにあることも分かりました。

このため計画どおりに着工されると、タンチョウへの影響は確実です。さらに計画路線上の森では、クマガラの食痕も多数確認されており、シマフクロウが利用している可能性も指摘されています。

現在計画が進められている7km区間より先は、いまのところ構想だけで計画は決まっておらず、アセスも行われていません。しかし、温根沼インターのすぐ先には、タンチョウが7つがい生息し、オオワシが多いときは100羽以上集まる温根沼が広がっており、隣接してシマフクロウが生息する森もあります。インターができれば、当然それにつながるように路線が延長されますから、インターより先のアセスを行わないままにインターの位置が決められているのは非常に問題があります。

【要望書】

日野鳥発第 150 号
平成 12 年 3 月 29 日

北海道開発局
局長 熊谷 勝弘 様

財団法人 日本野鳥の会
会長 黒田 長久

「一般国道 4 4 号線 根室道路（根室市）」の路線変更などに関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は本会の自然保護事業に格段のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、北海道根室市の温根沼周辺は、種の保存法の国内希少野生動植物種に定められているタンチョウやオオワシ、シマフクロウが生息する貴重な地域です。温根沼には 7 つがいのタンチョウが生息しており、100 羽以上のオオワシの渡来も観察されています。

しかし、この温根沼周辺で貴局により「一般国道 4 4 号線 根室道路（根室市）」が計画されております。この事業は、これら希少な野生生物の生息地に重大な影響を与えることが予測されます。また、貴局で実施された本事業の環境影響評価はたいへん不完全なものと考えます。つきましては、下記の理由により、計画路線の変更と環境影響評価の再実施を要望いたします。

敬具

記

1. 計画路線の変更について

貴局が実施された環境影響評価では、現計画路線上でタンチョウの採餌行動が観察されなかったため、タンチョウへの影響は小さいとしている。しかし、地元のニムオロ自然研究会（佐々木弘往会長）の調査によれば、計画路線上での採餌行動が観察されており、特に 1999 年の 10～12 月においては、採餌の中心域とねぐらが計画路線上にあった。そのため、計画路線どおりに道路ができれば、この採餌の中心域とねぐらが失われることは明らかである。したがって、タンチョウの生息域破壊を回避するために、計画路線は変更する必要がある。

2. 環境影響評価の再実施について

根室道路は将来的に釧路まで延長される構想であるが、現時点では温根沼インターより先（釧路側）の道路計画はまだなく、環境影響評価も行われていないと聞いている。しかし、温根沼インターが建設されると、それにつながるように釧路側の道路が建設されることが当然予想されるため、インターの位置決定には釧路側の環境影響評価も必要である。そのため、現状では環境影響評価が終了していないにも係わらず温根沼インターの位置を決めているといわざるを得ない。したがって、温根沼インターの位置を決定するための環境影響評価を改めて実施する必要がある。

以上

【要望書】

日野鳥発第 151 号
平成 12 年 3 月 29 日

建設大臣 中山 正暉 様
北海道開発庁長官 二階 俊博 様
環境庁長官 清水 嘉与子 様

財団法人 日本野鳥の会
会長 黒田 長久

「一般国道 4 4 号線 根室道路（根室市）」事業における
自然環境保全についての要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は本会の自然保護事業に格段のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、北海道根室市の温根沼周辺は、種の保存法の国内希少野生動植物種に定められているタンチョウやオオワシ、シマフクロウが生息する貴重な地域です。温根沼には 7 つがいのタンチョウが生息しており、100 羽以上のオオワシの渡来も観察されています。

しかし、この温根沼周辺で北海道開発局により「一般国道 4 4 号線 根室道路（根室市）」が計画されております。この事業は、これら希少な野生生物の生息地に重大な影響を与えることが予測されます。また、北海道開発局で実施された本事業の環境影響評価はたいへん不完全なものと考えます。そのため、下記の理由により、計画路線の変更と環境影響評価の再実施を北海道開発局長へ要望したところでございます。つきましては、貴職におかれましても、当該地域の自然環境保全のために特段の措置を講じていただきますよう要望いたします。

敬具

記

1. 計画路線の変更について

北海道開発局が実施された環境影響評価では、現計画路線上でタンチョウの採餌行動が観察されなかったため、タンチョウへの影響は小さいとしている。しかし、地元のニムオロ自然研究会（佐々木弘往会長）の調査によれば、計画路線上での採餌行動が観察されており、特に 1999 年の 10～12 月においては、採餌の中心域とねぐらが計画路線上にあった。そのため、計画路線どおりに道路ができれば、この採餌の中心域とねぐらが失われること

は明らかである。したがって、タンチョウの生息域破壊を回避するために、計画路線は変更する必要がある。

2. 環境影響評価の再実施について

根室道路は将来的に釧路まで延長される構想であるが、現時点では温根沼インターより先（釧路側）の道路計画はまだなく、環境影響評価も行われていないと聞いている。しかし、温根沼インターが建設されると、それにつながるように釧路側の道路が建設されることが当然予想されるため、インターの位置決定には釧路側の環境影響評価も必要である。そのため、現状では環境影響評価が終了していないにも係わらず温根沼インターの位置を決めているといわざるを得ない。したがって、温根沼インターの位置を決定するための環境影響評価を改めて実施する必要がある。

以上